

BBLセミナー プレゼンテーション資料

2022年5月11日

「フィジカルインターネットの実現に向けて～物流危機の克服のために～」

味の素株式会社

上席理事 食品事業本部物流企画部長

堀尾 仁

運べなくなる危機！

物流をとりまく危機的環境＋嫌われる加工食品物流＋2024年問題

嫌われる加工食品物流

①納品先での長時間待機(全産業中ワースト1)

例) 30分で済む下ろし時間に7時間待ち！

②ドライバーの運転以外の作業が多い(附帯作業)

例) 積み/下し、積替 (パレットtoパレット、パレットtoカゴ車など)
フォークリフト運転

③厳しい日付管理・納品期限管理

例) ロット逆転防止のための多頻度検品、1/3ルールチェック

④短いリードタイム(受注翌日配送)

例) 見込み配車(無理、無駄)、夜間作業前提

⑤非効率で、非合理的な悪しき商慣行

例) 納品場所での棚入れ、ドライバー作業を見込んだ納品先合理化

⑥小ロット多品種多頻度納品

～潤沢に人がいた時代はできていたが……

ドライバー不足(物流従事者不足)

- ・2027年には需要の27%が不足
(全産業比で賃金が2割安く、労働時間が2割長い)
- ・EC等で荷物量は伸長

SDGS、環境問題(CO2)

災害の激甚化・多頻度化

- ・大雨洪水、台風、大雪、地震

行政の監督強化・法令順守の厳格化

働き方改革 ⇒ 2024年問題

11.5時間以内、150km以内(/日)

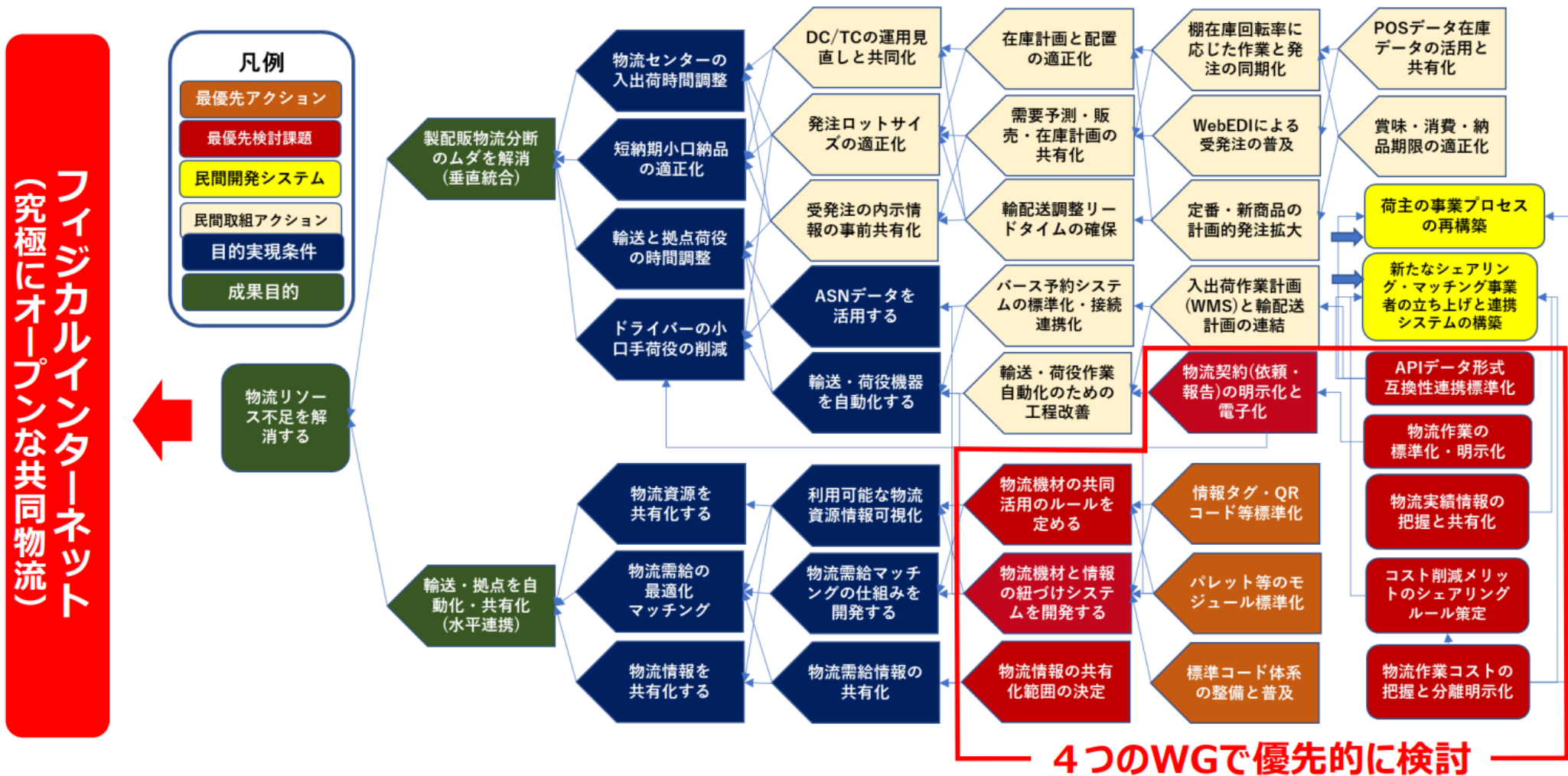
コロナ＝新しい生活様式

- ・非接触、非対面など

フィジカルインターネット実現に向けた重要項目の抽出

- WG参加委員に対して「物流に関する困りごと」についてアンケートを実施。その結果とアクションプランの項目同士の実現条件間の対立項目分析の結果をベースに重要項目を抽出。（橙・赤が最優先事項）

対立解消アイデア挿入後のアクションプランの関連図



※『アクションプラン項目と本WG参加委員への「物流に関する困りごと」アンケート結果を基にした橋本委員分析結果』を基に作成

持続可能な加工食品物流構築にむけた当社の取り組み

■国土交通省の総合施策大綱に基づき、かつ経済産業省のフィジカルインターネット実現ロードマップに賛同し、当社は目指すべき姿を設定し、取り組みを実施

大目標：持続可能な加工食品物流の構築

日経業界含め日本全体へ

ドライバー不足の解消

中目標：スマート物流＜データプラットフォーム構築＞

【強くてしなやかな物流】
～止めない物流～

- 物流費マネジメントの高度化・デジタル化
 - ・「ひと山いくら」からの脱却
「見える物流費」へ
 - ・物流費タリフの抜本的改定へ
⇒改善結果が反映される料金体系へ
- 安定した物流オペレーション
 - ・BCP対応と当社製品の確実で高品質な配送実現

【担い手にやさしい物流】
～足元課題の解決～

- 納品リードタイム延長
- 長時間待機撲滅
- 附帯作業撲滅
- ASN検品レス
- 納品期限の緩和

【簡素で滑らかな物流】
～標準化推進～

- 納品伝票電子化
 - 伝票エコシステム構築
- 外装サイズ標準化
 - 外装課題解決プロジェクト
2021年10月始動
- コード体系標準化
 - GS1標準コード導入
- 外装表示の標準化
 - 味の素社策定
「外装表示ガイド
ライン」の普及浸透

持続可能な加工食品物流構築実現にむけたステップ

